

トルコ共和国への留学報告及び各研究機関紹介

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学東洋史談話会 公開日: 2020-11-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 矢本, 彩 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/21228

《海外留学報告》

トルコ共和国への留学報告及び各研究機関紹介

矢本 彩

はじめに

報告者は、公益財団法人・平和中島財団の2015年度日本人留学生奨学生（中島健吉記念奨学金）に採択され、2015年9月から2017年8月までの2年間、研究・史料収集のためにトルコ共和国に留学した。イスタンブル5月29日大学（T.C. İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi）の大学院博士課程に客員研究生として籍を置き、オスマン帝国近代史研究の権威である歴史学科のアリー・アクユルドゥズ教授（Prof. Dr. Ali Akyıldız）の下で指導を受け、他の大学生・院生らとともに授業を受けながら研究に邁進した。

本報告は、2年間の留學生活で利用した研究・史料収集のための各研究機関の概要と利用方法を紹介するとともに、留學生活を振り返ることを目的としている。ただしこれらの内容はあくまでも2017年夏の段階での情報であり、すでに利用方法が変更されている機関もあることをご承知おきいただきたい。またトルコ共和国内の図書館や研究機関の概要とまとめは、最終更新は2015年と少し古いですが、公益財団法人・東洋文庫研究部の「イスラーム地域研究資料室（Documentation Center for Islamic Area Studies in Toyo Bunko/TBIAS）」も参照されたい⁽¹⁾。

1. イスタンブル5月29日大学
2. イスラーム研究センター（ISAM）
3. 大統領府オスマン文書館（旧首相府オスマン文書館）
4. アタテュルク図書館

1. イスタンブル5月29日大学（T.C. İstanbul 29 Mayıs Üniversitesi）⁽²⁾

(1) 概要

報告者が通っていたイスタンブル5月29日大学（以下、「5月29日大学」）の名称は、1453年にオスマン帝国のスルタン・メフメト二世がコンスタンティノープル（現イスタンブル）を征服し、ビザンツ帝国（東ローマ帝国）を滅ぼした日に由来する。同大学は、後述する通称イサム（ISAM = Türkiye Diyanet Vakfı İslam Araştırmaları Merkezi = トルコ宗教財団イスラーム研究センター）と

呼ばれる研究施設兼図書館に併設される形で 2010 年に創立された新しい大学である。創立当初は文学部のみで、文学部、哲学科、歴史学科、そしてトルコ語学科が設置されていた。現在は文学部、政経学部、神学部、そして教育学部の 4 学部が設置されている。

【地図】 イスタンブル近郊・各施設の所在地



「5月29日大学」のキャンパスは、報告者の在学当時はイスタンブルのアジア側ウスキュダル地区アルトゥンザーデにあるイサム敷地内にあった。同大学の学生とイサムを利用する一般研究者は基本的には同じ門から出入りし、入館の区別がされていなかったし、一部スペースを共有していた。利用上の差異としては、教職員及び学生用入館証でしか出入りできない裏門が存在する。食堂は一般利用者とはフロアが分けられていたが、食事内容は同じである。食堂横の建物にはカフェテリアがあり、図書館の地下にはお茶の飲める休憩室がある。いずれの施設も学生、一般研究者ともに利用可能だが、前者は学生以外の来店は見かけたことがない。またイサムとは別に学生用の図書室があった。ただし、公式HPによれば、同キャンパスは2018年9月にウムラニエ地区に移転された。キャンパス移転後の現在の様子は未確認である。

報告者は、カドゥキョイ地区でトルコ人と同居をしていたため利用していないが、客員研究生であっても大学の学生寮を利用できる。

(2) 授業内容

報告者は先述のアーリー先生のほか、イルハン・シャーヒン教授 (Prof. Dr. İlhan Şahin) とオメル・イシュビリル教授 (Prof. Dr. Ömer İşbilir) の各授業を受講した⁽³⁾。開講されている授業は一部、英語やアラビア語習得を目的とする語学授業を除き、すべてトルコ語である。オスマン帝国時代の史料は基本的にオスマン語 (アラビア文字で書かれたトルコ語) のためオスマン語の読解は必須であった。当然、学部生向けのオスマン語の授業の方が簡単であり解説も丁寧であった。暇なく授業に参加し、オスマン語を学ぶ毎日だったため非常に有意義だったが、自身の研究に割く時間

が少なくなってしまったことは反省点である。

上記3名の先生方全員が、授業の一環として文書館などの案内をしてくださった。アリー先生はかつてオスマン文書館で勤務されていた経歴があるため、後述する大統領府オスマン文書館の一般公開されている博物館エリアと非公開エリアの文書史料庫の見学をさせていただいた。イルハン先生はシシュリ地区オスマンベイにあるイスタンブル軍事博物館 (İstanbul Harbiye Askeri Müzesi) を案内してくださった。その際に軍事史の専門であり、同博物館の監修も行っていた「5月29日大学」のゼケリヤ・トゥルクメン講師 (Dr. Öğr. Üyesi Zekeriya Türkmen) も同行してくださり、非常に有意義な見学となった。またメフテルというトルコ軍楽隊の演奏も見学することができた。そして、オメル先生はファーティフ地区のイスタンブル大学希少書図書館やスレイマニエ図書館、バヤズィト図書館などの案内をしてくださった。

【表】 報告者が受講した授業とその概要

担当教員	受講対象者	授業名
アリー先生	学部4年	オスマン帝国社会経済史 / Osmanlı Sosyal ve Ekonomik Tarihi
	修士1年前期	オスマン帝国制度史 / Osmanlı Müesseseleri Tarihi
	修士1年後期	オスマン文書の言語 / Osmanlı Belgelerinin Dili
	博士1年前期	オスマン古文書学：台帳 / Osmanlı Diplomatiği: Defterler
	博士1年後期	オスマン古文書学：文書 / Osmanlı Diplomatiği: Belgeler
イルハン先生	学部1~4年	オスマン帝国歴史地理 / Osmanlı Tarihi Coğrafyası
オメル先生	学部2年	オスマン語文献講読 / Osmanlı Metinler
	学部3年	オスマン文書講読 / Osmanlı Belgeleri

2. イスラーム研究センター (Türkiye Diyanet Vakfı İslam Araştırmaları Merkezi) ⁽⁴⁾

(1) 概要

このイスラーム研究センターは先述のとおり通称イサム (İSAM) と呼ばれ、『イスラーム百科事典 (Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Ansiklopedisi)』編纂のために1983年に創立された研究機関で、1993年には図書館が開設された。開館時間は朝9時から23時までである。ただし毎週金曜日の昼は礼拝のために食堂と休憩室が閉められ、図書館の職員も皆金曜礼拝に行ってしまうため、後述するコピーサービスや会員登録はこの時間帯にはできない。

一般的な公共図書館、大学図書館とは異なりイスラーム分野に特化した専門図書館であるため、当該分野に関係しない書籍は置かれていない。一部の閉架書庫に収納されている史料類をのぞい

てほぼ全ての史料に容易にアクセスできる。このような特徴のため「5月29日大学」や近隣大学の学生だけではなく、諸外国から研究者が訪れるイスラーム研究の一大拠点でもある。例にもれず日本人研究者も多数見られる。しかし「5月29日大学」のキャンパス移転後の様子は未確認であり、以下で記す利用手順や施設の配置なども大きく変更されている可能性がある。

イサムまでのアクセス方法は、かつてはメトロバスのアルトゥニザーデ停留所から15分ほど歩くか、カドゥキョイやウスキュダルからバスでパーラルバシュ停留所まで来て5分ほど歩くのが通常であった。しかし現在はウスキュダルからウムラニエ方面まで新たに地下鉄が開通しているため、地下鉄パーラルバシュ駅で降車するのが最も楽な方法だろう。

(2) 利用方法

門で利用者の身分証と入館証を交換すれば、その日限りの入館が許可される。カードリーダー式のゲートから入って左手がかつての大学キャンパスとして使われていた棟で、右側がイサムの運営・出版を管理する棟、正面が本題の図書館である。図書館に入ると再度カードリーダー式のゲートを通る必要がある。

ゲートを通過して左手が様々な事務手続きが行なわれる受付である。もし毎回、門でのやり取りに不便を感じるのならば、受付で利用者登録が可能である。あるいは、長期休暇中に毎日通っていると利用者登録を勧められるが、登録せずとも会員とほぼ同等のサービスが受けられる。留学などの長期滞在者であっても最長1年ごとの更新が必要となり、短期滞在者の場合はビザの入国制限が利用期限となる。カードを返却する必要がないので、短期滞在者であっても次にトルコに来た際に更新をすればそのまま使用可能である。必要なものは、身分証のコピー、写真、そして手続き費用5TL（2017年当時）である。長期滞在者は在学証明書や滞在許可証（ikamet）の提示が必要である。その場で申請書類を記入して提出すれば、1週間ほどで会員証が受け取れる。

図書の貸し出しを希望する場合は、利用者登録が必要になるが、コピーの場合は登録の有無にかかわらず一律料金で依頼できる。値段は時代に伴い上がっているが、報告者が滞在当時は5クルシュから6クルシュへの値上げがあった。またサイズやカラーの有無で若干値段が変わる⁽⁵⁾。1回あたりのページ数制限が設けられているが、同様の値段設定でコピーした書籍のPDF化、あるいは反対にPDFやワード文書などの印刷サービスもある。その場合は印刷係専用のメールアドレス宛に印刷したいファイルを添付してメールを送ればよい。また館内ではインターネットWi-Fiが利用可能だが、パスワードは受付で登録してもらう必要がある。

正面には検索用パソコンが設置されており、図書館内の蔵書を検索することができる。各自のパソコン、スマートフォンなどからも検索は可能である。その場合はイサム公式HP内の「Kütüphane KATALOG TARAMA（図書館蔵書検索）」から各種書籍・史料の検索ができる。また『イスラーム百科事典』も現在はウェブ上での閲覧、PDFのダウンロードが可能である⁽⁶⁾。

(3) 蔵書・史料の特徴

イサムの蔵書は、イスラーム神学やイスラーム地域に関する人文科学系の学術書、学術雑誌などが主要部分を占めている。トルコ語だけではなく英語はもちろんオスマン語、アラビア語、ペルシア語と多言語にわたる。他には上述のイサム編纂・刊行の『イスラーム百科事典』をはじめとする各種辞典、事典類が挙げられる。報告者は主に20世紀初頭オスマン帝国の新聞や回想録を閲覧していた。これらの他にオスマン帝国各地域のシャリーア法廷台帳などの史料にもアクセス可能である。台帳はマイクロフィルム化されているため、専用の閲覧パソコンが設置されている。またイスラーム神学・文学・歴史分野などをテーマとした学位論文も多数収められている。

3. 大統領府オスマン文書館 (T.C. Cumhurbaşkanlığı Osmanlı Arşivi) ⁽⁷⁾

(1) 施設概要

オスマン文書館はオスマン帝国時代の1846年に文書局 (Hazine-i Evrak Nezareti) として創立されたのが始まりである。現在のオスマン文書館はイスタンブルのヨーロッパ側キヤーウトハーネ地区に位置している。元の所在地はヨーロッパ側ファーティフ地区のギュルハーネ公園の真向かい、かつての大宰相府敷地内であったが、2013年に現在の場所に移転された。そして、2018年7月に首相府から大統領府オスマン文書館へと管轄機関及び名称が変更された。

当時の開館時間は、平日は朝8時半から18時まで、土曜日は閲覧のみで朝8時半から16時までである。併設されている博物館エリアは平日朝9時から17時までである。

タクシムあるいはエミノニュからバスに乗りサダーバード・オスマン文書館停留所で降りるとすぐである。メトロバスのオクメイダヌ・ハスターネ停留所で降車して徒歩15分坂を下るルートもあるが、坂があまりにも急なため帰り道はお勧めできない。

(2) 利用方法

最初に門でセキュリティ・チェックを受ける。他の図書館のようにここで身分証を預ける必要はなく、初めての場合は会員登録に来た旨を伝えれば中に入れる。正面右手側が食堂のある棟、中央が史料庫や博物館、そして左手が文書館利用者の入り口である。さらに左奥に行くとお茶の飲める休憩室があるが、敷地が広大なため門の警備員に場所を尋ねることをお勧めする。館内に入ると右手側の事務所で登録ができる。長期滞在者も短期滞在者も滞在許可証やビザの期限が利用期限であり、その都度更新が必要となる。毎回、住所や氏名のほかに研究テーマなどを記入して申請する必要がある。その場で写真を撮ってくれるため、必要なのは身分証、滞在許可証などである。事務室を出て向かい側に受付があり、ここで会員証を見せるとロッカーの鍵がもらえる。受付の後ろがロッカー室である。閲覧エリアにはカバンの類はもちろん、パソコンのケースです

ら持ち込みができない。貴重品と研究に必要な筆記具やパソコンなどは何にも入れずにそのまま持ち運ぶ必要がある。

閲覧室は閲覧する史料が電子化されているか否かで1階と2階に分かれるようである。報告者は検索パソコンが設置され、電子化史料を閲覧可能な2階閲覧室しか利用したことがない。閲覧室内には辞書やオスマン史関連の書籍も置かれており、閲覧・利用が可能である。2013年の移転以降、文書史料の電子化が一層進んでおり、現在ほとんどの史料がパソコン上での閲覧になる。もし電子化されていない史料があったとしても、かつては閲覧申請をして早ければ翌日に現物を手にすることができた。しかし現在、非電子化文書の閲覧申請をすると一度拒否され、数日以内に電子化され、パソコン上で閲覧できるようになった。要するに、利用者から必要とされている史料から順次電子化されている。閲覧・申請パソコンの詳細な使用方法は割愛する。紙媒体の史料の受け取りを行なうカウンターのほか、フロア内に利用者のサポートをしてくれる職員もおり、パソコンの操作方法も教えていただける。また必要な文書史料をCDに焼いてもらうことも可能で、その場合も職員に頼むことになる。値段はかつて1ページ25クルシュほどだったが、現在の値段は未確認である。金銭のやり取りは会員登録をした事務室の隣の会計室で行なう。

一度、会員登録すれば公式HP上でも蔵書史料の検索が可能である。現時点では史料は電子化の有無にかかわらず現地でしか閲覧できない。

(3) 所蔵史料の特徴

オスマン文書館に所蔵されている史料の数は1億点以上と言われている。すでに述べたとおり、そのほとんどが電子化されており、現物を見ることは難しい。史料の種類は多種多様な政府発行の未刊行文書である。例えば報告者は、主に20世紀初頭の軍事勅令 (İrade, Askeri)、大宰相府文書室 (Bâb-ı Âlî Evrâk Odası)、内務省書記局 (Dâhiliye Nezâreti Mektûbi Kalemî)、そして公安省 (Zabtiye Nezâreti) の各種文書を収集、読解している。何枚にもわたって出来事の詳細が記されているものから、たった一行の通達、報告文で終わるようなものまで、オスマン帝国時代のあらゆる公文書が収められている。

4. アタテュルク図書館 (Atatürk Kitaplığı) ⁽⁸⁾

(1) 概要

2015年7月に渡航してから大学が始まるまでの約2か月間、タクシムにある語学学校に通いながら毎日のようにアタテュルク図書館で勉強していた。同図書館はイスタンブール市立図書館であるため、イサムと比較すると一般利用者が多数を占めている。高校生や大学生の試験勉強のためにも利用されており、若い学生が多く見られる。それと同時に、オスマン帝国時代の公文書や

新聞、雑誌などの定期刊行物も所蔵されている。

詳細は後述するが各種史料の閲覧申請と閲覧室の利用は、専門の職員がいる日中のみである。一般閲覧室の開室時間は最長で朝7時から23時までである。このため学生の利用者が多いのだろう。報告者も21時ごろまで滞在したことがあるが、皆熱心に勉強していた。

図書館の所在地は、ベイオール地区タクシム広場の裏手である。図書館を囲むようにイスタンブール工科大学のキャンパスが建っている。

(2) 利用方法

入場門で身分証と入館証を交換し、建物の入り口で名簿に名前を記入すれば閲覧室に入ることができる。オスマン史・トルコ共和国史関連の諸史料を閲覧する場合は地下閲覧室、一般書籍の閲覧と勉強を目的とする場合は2階閲覧室である。

オスマン語諸史料の閲覧は地下室の申請用紙に記入すれば、早ければその日のうちに閲覧ができる。報告者は留学したばかりで語学力が足りない、依頼した史料数が多い、そして職員とのタイミングが合わない、という不幸が重なり数日待たされたことがある。

2階閲覧室に配架されている一般書籍の貸し出しには利用者登録が必要になるが、閲覧のみであれば不要である。冒頭で述べたとおり、若い学生の利用者が多く、日中はかなりにぎやかである。入り口には流行りの小説などが展示されており、まさに市立図書館の様相である。

一般書籍及び史料の検索は公式HPのトップページから行なえる。留学当初は館内システム及びHPがそこまで整備されていなかったが、現在はウェブ上で会員登録すれば相当数の蔵書史料の閲覧、PDFのダウンロードが可能になっている。

(3) 蔵書・史料の特徴

市立図書館であるため一般利用者も多く、現代トルコ語の新聞や雑誌といった定期刊行物、小説、各分野の学術書が多数収められている。イサムのようにイスラーム分野に限って収蔵されているわけではない。そしてオスマン帝国時代の定期刊行物、オスマン語の書籍や文書史料、アラビア語やアルメニア語など諸外国語の諸史料、地図やポストカードの類に至るまで幅広い史料が収められている。電子化されている史料と、修復済みで現物を手に取って閲覧できる史料がある。報告者は主にオスマン語の新聞の閲覧を依頼し、持ち込んだデジタルカメラで自ら新聞史料を撮影した。オスマン帝国時代のまとまった量の新聞が直に手にできる研究施設として、イスタンブールではアタテュルク図書館の右に出るものはいない。ただし現在は、上述のとおりPDF化された史料がウェブ上で閲覧可能なため、現物を手にできるかは未確認である。

おわりに

2年間を振り返り、最も大変だったことは授業についていくことでも自身の研究でもなく、滞在許可を得て、各研究施設で利用登録をする、という公的な手続きだったように思う。どの国においても外国人が滞在許可を得ることは容易ではなく、トルコも例外ではない。私が暮らした2年間はちょうどテロやクーデタが頻発し、なおかつシリア人難民が増加していた時期であった。滞在許可証を発行する移民局の中にすら入れてもらえない移民・難民を多数見かけた。そのトルコにおいては、日本人は比較的容易に手続きができる外国人である。それでもあれだけ苦勞し、涙しながら手続きをした、その時のことは決して忘れないだろう。

もちろんトルコには良い部分もたくさんある。何よりも人が温かく、親切である。分からないと言えば懇切丁寧に教えてくれる。多少お節介なのが玉に瑕だが、外国人故に気付けないことがたくさんあるため、お節介してもらえて助かったことが何度となくあった。

この場を借りて、ご指導下さったアリー先生、イルハン先生、オメル先生、そしてトルコの友人たちに感謝の意を表したい。

末筆ながら、平和中島財団から中島健吉記念奨学金を受給し、日本人留学生奨学生として留学のご支援を頂いたことを心よりお礼申し上げます。

註

- (1) 「東洋文庫研究部 イスラーム地域研究資料室」<<http://tbias.jp/>> (2020年2月20日閲覧)。
- (2) 「イスタンブル5月29日」<<https://www.29mayis.edu.tr/tr/>> (2020年2月20日閲覧)。
- (3) イルハン先生には2012年度明治大学国際交流長期招聘教授として本学でオスマン史などの授業をしていただいた。現在は「5月29日大学」のご所属である。オメル先生はミーマル・スィナン芸術大学 (T.C. Mimar Sinan Güzel Sanatlar Üniversitesi) 歴史学科のご所属である。
- (4) 「イスラーム研究センター (İSAM)」<<http://www.isam.org.tr/>> (2020年2月20日閲覧)。
- (5) 100クルシュ=1トルコリラ、最小貨幣が5クルシュ硬貨のため、コピー枚数が1枚6クルシュに値上げされても支払いができない。そのため、5枚以下の場合は実質値上げ前の料金が適用されていた。
- (6) 「トルコ宗教財団イスラーム百科事典」<<https://islamansiklopedisi.org.tr/>> (2020年2月20日閲覧)。
- (7) 「大統領府オスマン文書館」<<http://www.devletarsivleri.gov.tr/>> (2020年2月20日閲覧)。
- (8) 「アタテュルク図書館」<<http://ataturkkitapligi.ibb.gov.tr/ataturkkitapligi/>> (2020年2月20日閲覧)。